

論文の内容の要旨

森林科学 専攻

平成24年度博士課程入学

氏名 伊藤 いずみ

指導教員名 下村 彰男

論文題目 情報の伝達からみる現代の風景の受容

現代、特に2000年以降、景観法制定、文化財保護法改訂（重要文化的景観）、世界遺産の振興、ニューツーリズムの台頭など、風景に関する制度・政策、潮流に大きな変化がみられ、転機を迎えている。

風景には、個人の経験による個人的な風景と、社会で共有された集団表象化した風景がある。風景は個々の認識の問題であるが、個人を超えて他と共通する価値観が存在する。集団表象化した風景とは、社会状況を背景とするものである。

現代は情報社会であり、21世紀になってからはインターネットが広く社会に浸透したインターネット社会と考えられる。インターネット社会では、情報発信手段が簡易になり情報に対してフラットな関係が構築される。また、ネットコミュニティという新しい形態のコミュニティが誕生している。

このような社会状況の中で、潮流が変化したと言われる現代の風景はどのような様相となるのか、またその成立に情報社会の特徴は関わるのかを明らかにしたい。

本研究の目的は、インターネットが普及した現代の風景の様相と成立について、情報伝達との関係を明らかにすることである。集団表象化する風景について情報伝達に着目したモデルを作成し、現代における風景の生成過程と、風景が多様化する状況を、インターネットの発達に伴う情報の伝達・共有の特徴との関係から明らかにする。細分化した目的は以下のとおりである。

1) 現代に出現した風景の様相とその生成過程を明らかにし、インターネットを利用した情報伝達の特徴を考察する。2) 戦後の風景に対する選好の変遷から、風景の多様

性の状況を明らかにし、情報伝達との関連を考察する。3) 風景が社会化し風景観として成立する要因について、事例の分析をとおして情報伝達の観点から考察する。

第一章では、上記の背景と研究の目的を記述し、研究の構成と位置づけを示した。また、情報社会、情報技術の発展と現在の状況を解説した。

第二章では、本研究の主要概念である、風景の発展段階における「風景化」「風景観」について定義を行い、風景に関わる情報を考慮した風景化に関わる情報伝達モデルを策定し、モデルのパターン毎に過去の風景観の事例を適用しモデルを検証した。そのうえで、現代における風景化の特徴を情報伝達の面から考察し仮説的に提示した。

集団表象としての風景や風景観が成立する過程を「風景の発展段階」(図1)として示したうえで、「風景化」は、実景がコミュニティ共通の価値を得て、名称がつけられ存在意義を持って風景と認識され、コミュニティ内のみならず社会に風景の存在が知られるようになった状態であり、その後、社会全体で価値観が醸成されて「風景観」になると定義した。

風景化に関わる情報伝達モデル作成にあたり、構成要素として、情報、メディア、コミュニティをあげ、各要素の類型化を行い、それらの風景化の際の関係を考慮しモデルを策定した。(図2)

そして、メディアやコミュニティの組み合わせによる情報伝達パターン別に、過去の風景化の事例を用いて、風景化に関わる情報伝達モデルを検証した。また、インターネットメディアを利用する現代の風景化にモデルを適用し、現代の風景化の情報伝達の特徴を、1) 情報が自律的に拡散すること、2) コミュニティ形態が多様で複合すること、3) 情報の種類、性質が変容してきたこと 4) 従来の情報伝達プロセスや発信主体が併存すること、5) 情報の蓄積により情報伝達が非同期であることと考察した。

第三章では、アニメ聖地巡礼を事例として現代の風景の一つの様相を明らかにするとともに、第二章で提示した現代の風景化の情報伝達の特徴との関連を考察した。

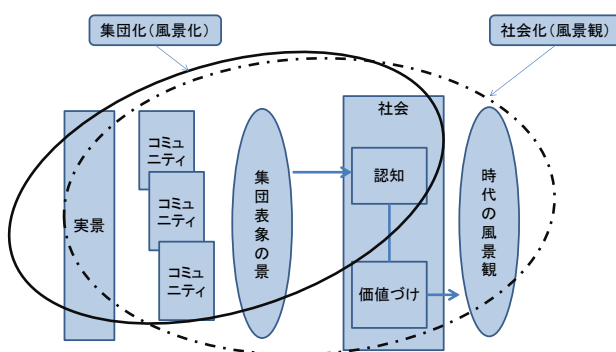


図1 風景の発展段階

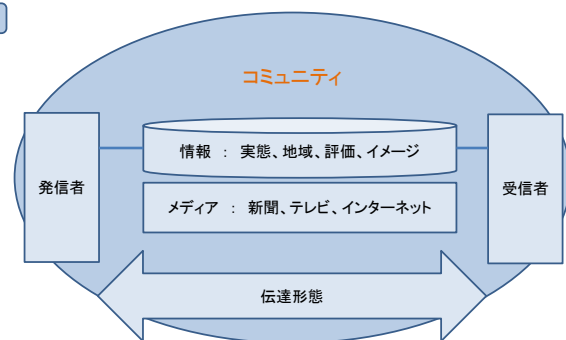


図2 風景化の情報伝達モデル

アニメ聖地巡礼は、21世紀になって社会に認知されたニューツーリズムのひとつであり、アニメファンがアニメの背景から風景を発見し、インターネットを利用してその情報を広め、“聖地巡礼”として現地に赴くものであり、新たな風景の見つけ方を提示しているといえる。

本章では、162作品のアニメ聖地について調査し、アニメ聖地巡礼の発展経緯と対象としている風景について概観した。さらに、全作品のツイート情報を取得してアニメ聖地巡礼は過去の作品に対しても情報発信が継続していることを明らかにした。

そして、アニメ聖地巡礼が一般に認知されるきっかけとなった「らき☆すた」の鷲宮神社に関するブログ分析から、ブログ情報とマスメディア、地域のイベントが連動すること、情報を参照し行動（聖地巡礼）し情報を発信するサイクルが見られること、その情報は神社の形態に関する情報と、場所・イベントに関する情報が多いことを明らかにした。

また、著名な作品のアニメ聖地巡礼の始まりの時期（アニメ聖地を特定する時期）をツイッターの情報から分析を行ったところ、アニメ聖地が特定されるときに作品の公式サイトや、地元のサイトなどの情報を参照し転送して拡散する状況が認められた。ツイッターのフォロワー関係の分析からは、少数のユーザーのフォロワー数が多く、多数のユーザーはフォロワー数が少ないことが明らかになり、このことからスケールフリーネットワークの性質があり、HUBが存在すると考察された。

以上、アニメ聖地巡礼に象徴されるインターネット社会における風景化の特徴として、その情報伝達はHUBの情報の引用と、自らの行動（アニメ聖地の発見、巡礼の報告）の発信が複合し自律的に拡散するものであること、コミュニティは、インターネット、地域を含む複合的なものであることが考察された。

第四章では、戦後の風景に関する百選・百景を事例に、現代の風景の多様性の状況を明らかにするとともに、第二章で提示した情報伝達の特徴との関連を考察した。

戦後に選定された51個の百選から、選定する風景の対象が自然景から人文景、歴史景へと範囲が広がることが明らかになった。そして、観光地を対象とした5個の百選の選定地の比較分析では、選定地の風景の種別が自然景中心の時代から、文化的景観、産業景観などの割合が増加していくという対象の広がりも明らかになった。選定地に関しては、時代毎に新たな風景が選出されていたが、以前の選定地が全て変化するものではなく、風景に対する見方が重層的に多様化してきたと考察された。

さらに平成百景の選定地の属性を考慮した分類からは、「安定性←→流動性」「名所性←→新規性」の軸が見出され、ここでも、かつての名所への嗜好の継続、新しい価値への指向、イベント性の指向という、重層的な多様性が明らかになった。また、平成百景で初めて選ばれた場所に、新しく公的に確立した評価（文化的景観など）を得た箇所と、イベントに代表されるその時その場所限りの箇所があり、従来からの見方と同じである安定的な新しさと、風景に没入する流動的な新しさがあることが考察された。

このように風景が多様化する要因として、実態としての景の種類増加と、情報の変容によって多面的な見方がなされること、情報伝達のプロセスが複合すること、情報の蓄積が進み過去の情報も残り続けることで、従前の風景も継続し重層的になることが考察された。

第五章では、風景の発展段階において、「風景化」の後、風景が社会化し風景観として成立する要因について、事例の分析をとおして情報伝達の観点から考察した。

過去の風景観が成立した状況を情報伝達の観点からみると、単一の種類の情報や単一のコミュニティの行動のみでなく複数の主体が多様な手段で情報を伝達した結果、社会的に認知され価値を認められてきたことが考察された。

そこで、現代における風景観形成の事例として産業景観（テクノスケープ）をとりあげ、産業景観を学術的・文化財的意義から価値を広めていく活動とともに、純粋に“カタチ”として愛好するドボクエンターテイメント、さらに産業景観を地域振興に利用しようという活動が、互いに情報を参照することやコミュニティの協働などがあって、社会に認知され一定の価値を認められてきたことを明らかにした。

複数の情報発信主体が、互いに情報を参照して転送、再編集後発信を行い、さらに情報の拡大につなげる間メディア性、風景化を達成したコミュニティが、規模や性格の異なる他のコミュニティと連携する間コミュニティ性ともいべき状況があって風景観の成立へつながると考察された。

今後、情報社会で成立する風景観は、かつての名所景のように、インターネット上の集合知の景ともいべき、風景の見つけ方に対して成立することが想定された。

第六章では、以下のとおり本研究の結論をまとめた。

現代の風景の様相として、1つはアニメ聖地巡礼のように鑑賞者（一般の人）が発見し社会的に認知される新しい風景化のプロセスがある。その成立にはインターネットが関わり、HUB が存在するネットワークが作られ情報が自律的に拡散すること、多様なコミュニティが複合することがとしてあげられる。また、百選・百景の状況から風景が多様化する状況に、従来からの見方と同じである安定的な新しさと、風景に没入する流動的な新しさがあり、それまでの風景と併せて重層化する状況が見られる。これは、情報の変容すること、情報伝達のプロセスが複合して存在すること、及び、情報の蓄積が進み過去の風景に関する情報も残り続けることに起因する。

風景化した風景が風景観となるプロセスとしては、異なる属性のコミュニティ間で連携し、情報伝達・共有を行い、より大きなコミュニティを形成していくことが考えられる。また、現代の風景観として風景の見つけ方に新しい状況が生まれる可能性があることが考察された。